

| | 長岡平野 西縁断層帯 | 新津断層 | 月岡断層 |
|----------------------------|--|--|--|
| 地震の規模: モーメント マグニチュード | 7.46 (気象庁マグニチュード 7.9に相当) | 6.45 (気象庁マグニチュード 6.7に相当) | 6.76 (気象庁マグニチュード 7.1に相当) |
| (参考※) | 平均活動間隔 約 1,200 年~3,700 年 断層の活動性 3m/千年程度 | 明確な活動性は明らか になっていない。 月岡断層より、活動性 は低いと考えられる。 | 平均活動間隔 7,500 年以上 断層の活動性 0.4m/千年程度 |

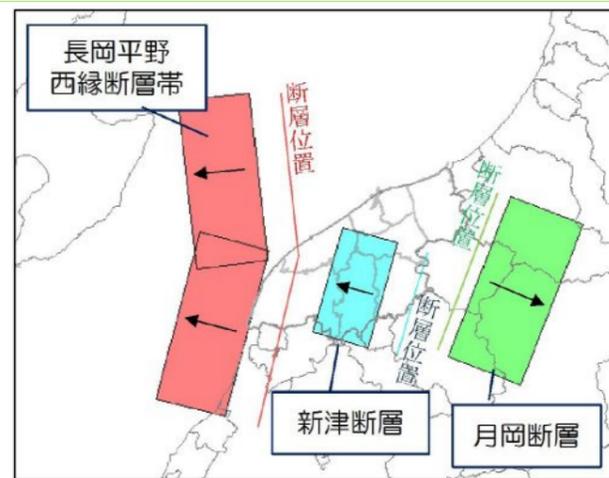
※(参考) 国の地震調査研究推進本部の活断層帯の長期評価(算定基準日:平成 27 年 1 月 1 日)及び東京大学地震研究所 佐藤比呂志教授の助言を参考として記載しています。

【地震発生確率について(地震調査研究推進本部資料より)】

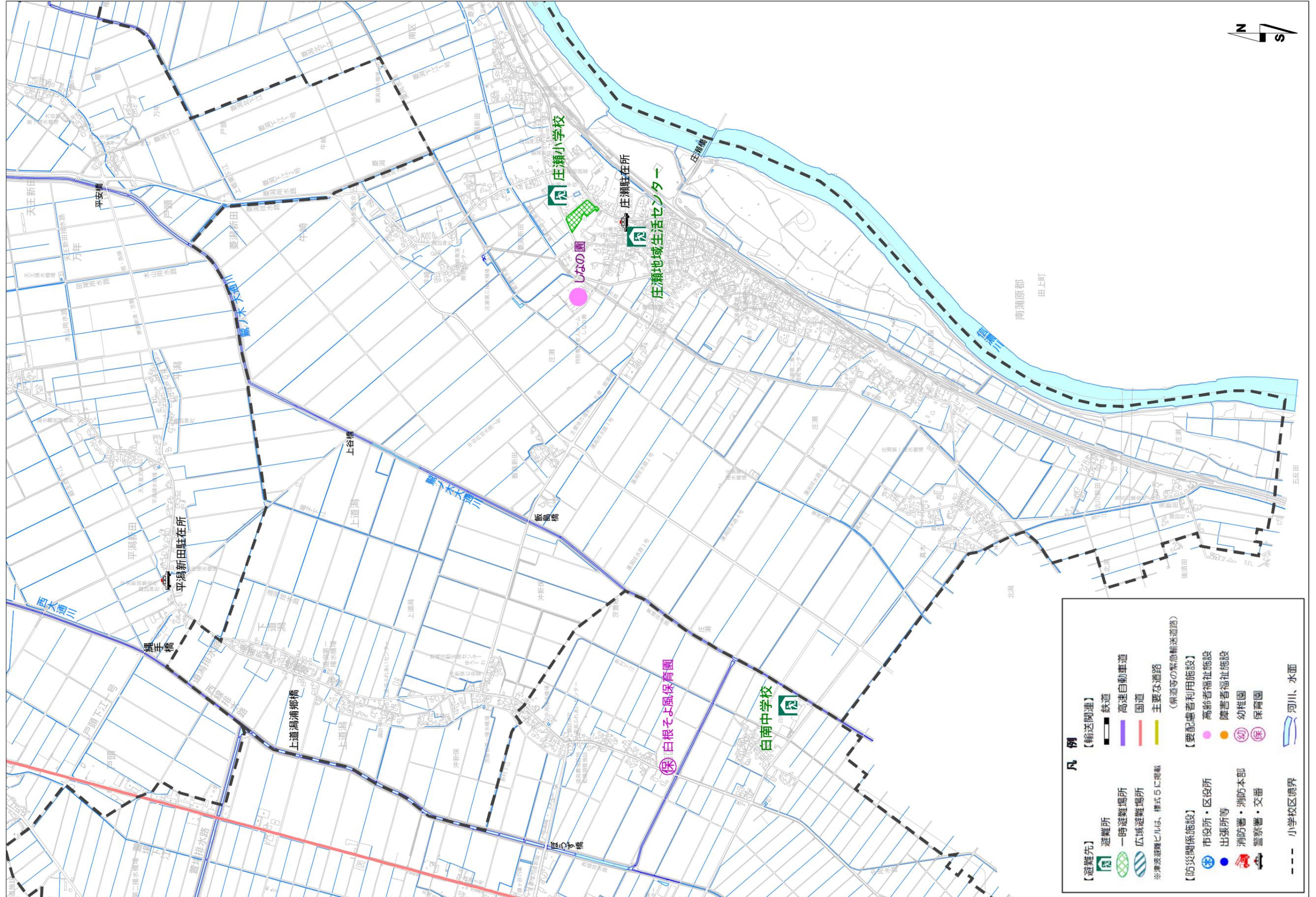
過去の地震活動の時期や発生間隔は、幅を持って推定せざるを得ない場合が多いため、地震発生確率は不確定さを含んでいます。また、新たな知見が得られた場合には、地震発生確率は変わることがあります。

<<モーメントマグニチュードと気象庁マグニチュード>>

モーメントマグニチュードは、地震で岩盤が動いた面積等をもとに計算するため、計測に時間を要しますが、エネルギーの規模を正確に測定することができます。これに対して、気象庁マグニチュードは、地震計で計測される波の振幅から計算しており、迅速に発表することができます。



← は、断層の傾きを示しています。

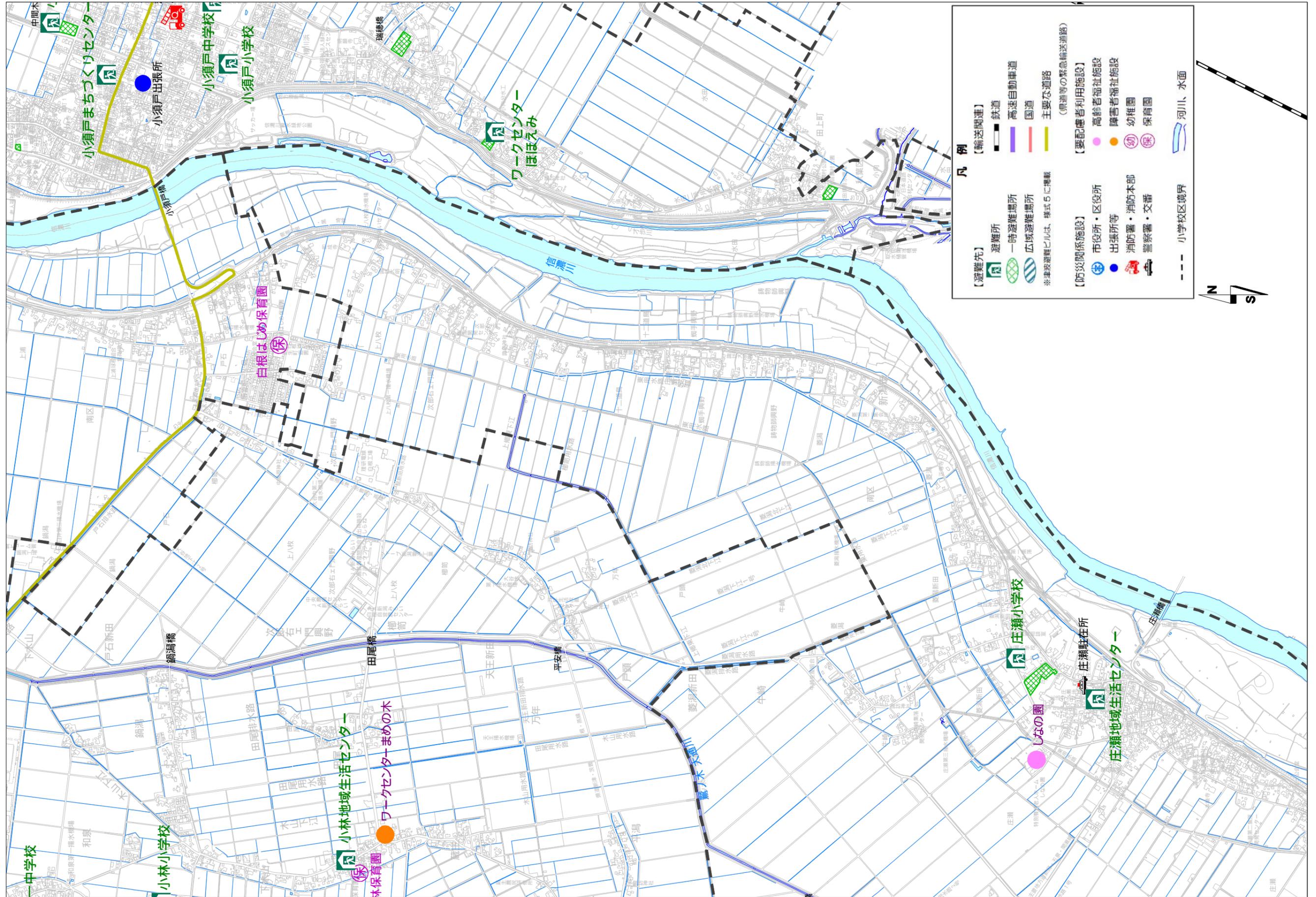


[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図 (平成20年, 平成25年, 平成26年)



凡例

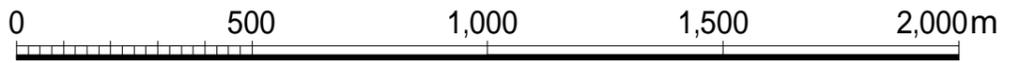
| | | | | |
|---|---|---|--|---|
| <p>【避難先】</p> <ul style="list-style-type: none"> 避難所 一時避難場所 広域避難場所 ※津波避難ビルは、様式5に掲載 | <p>【輸送関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> 鉄道 高速自動車道 国道 主要な道路 (県道等の緊急輸送道路) | <p>【防災関係施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市役所・区役所 出張所等 消防署・消防本部 警察署・交番 | <p>【要配慮者利用施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢者福祉施設 障害者福祉施設 幼稚園 保育園 | <ul style="list-style-type: none"> 小学校区境界 河川、水面 |
|---|---|---|--|---|

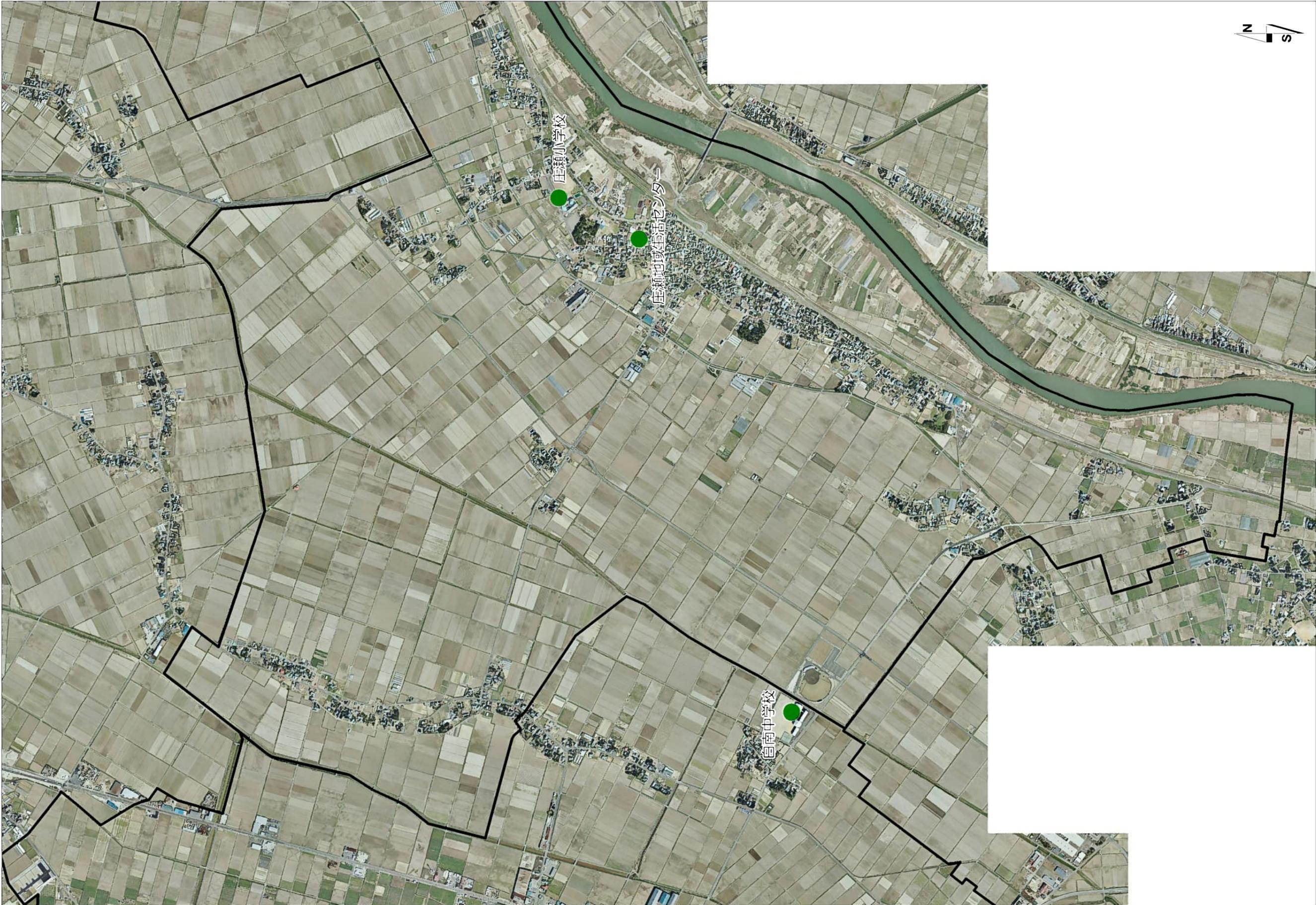


凡例

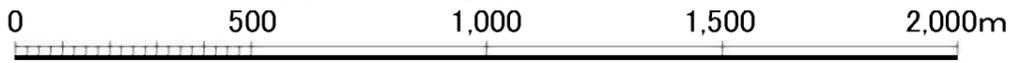
| | |
|-----------------|-------------|
| 【避難先】 | 【輸送関連】 |
| 避難所 | 鉄道 |
| 一時避難場所 | 高速自動車道 |
| 広域避難場所 | 国道 |
| ※津波避難ビルは、様式5に掲載 | 主要な道路 |
| | (県道の緊急輸送道路) |
| 【防災関係施設】 | 【要配慮者利用施設】 |
| 市役所・区役所 | 高齢者福祉施設 |
| 出張所等 | 障害者福祉施設 |
| 消防署・消防本部 | 幼稚園 |
| 警察署・交番 | 保育園 |
| --- 小学校区境界 | 河川、水面 |

[出典] 基礎の地図 新潟市国土基本図 (平成20年, 平成25年, 平成26年)

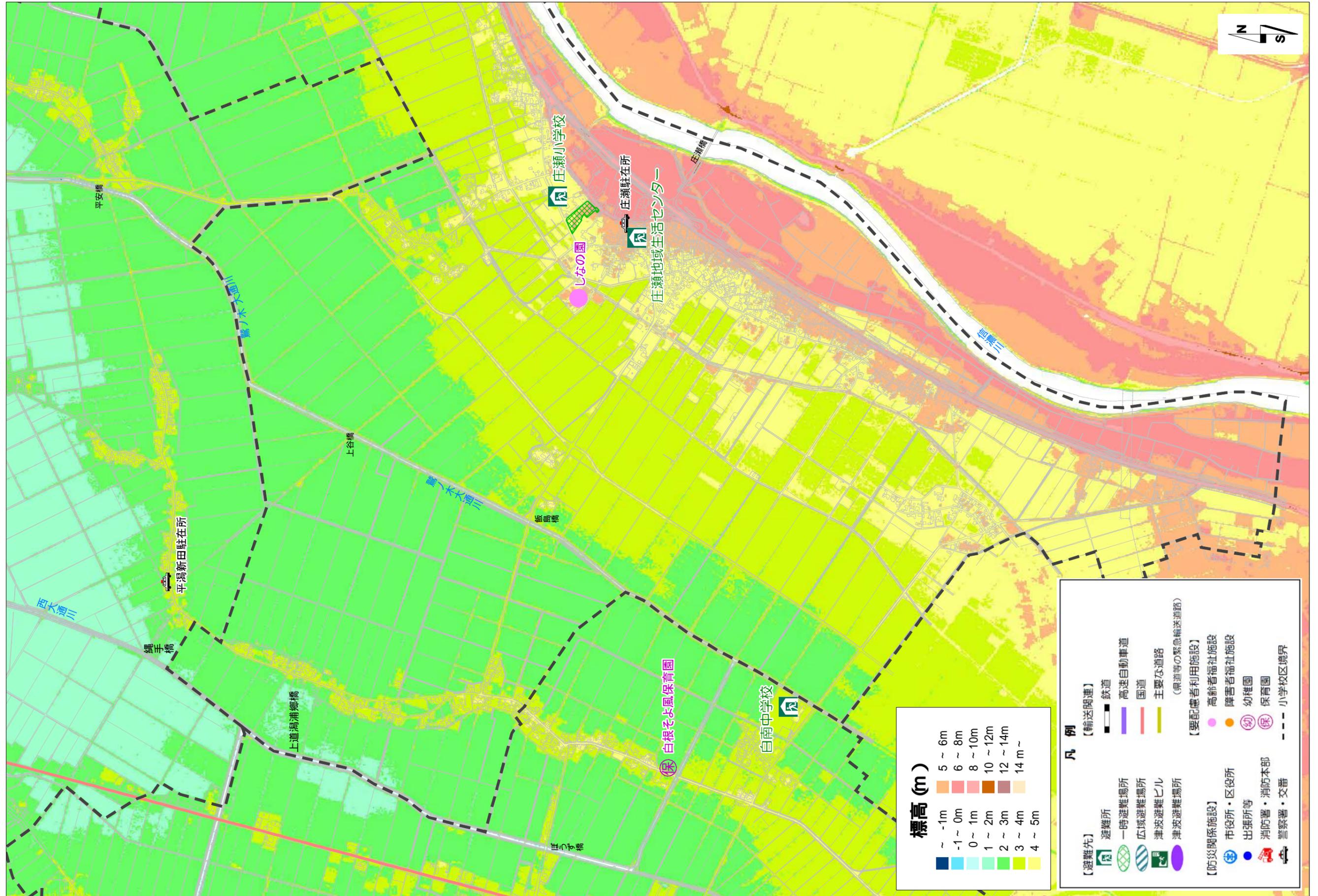




[出典] 航空写真(平成26年4月)







【出典】 基盤の地図 新潟市国土基本図 (平成20年, 平成25年, 平成26年)
5mメッシュDEM (国土地理院, 平成25年)

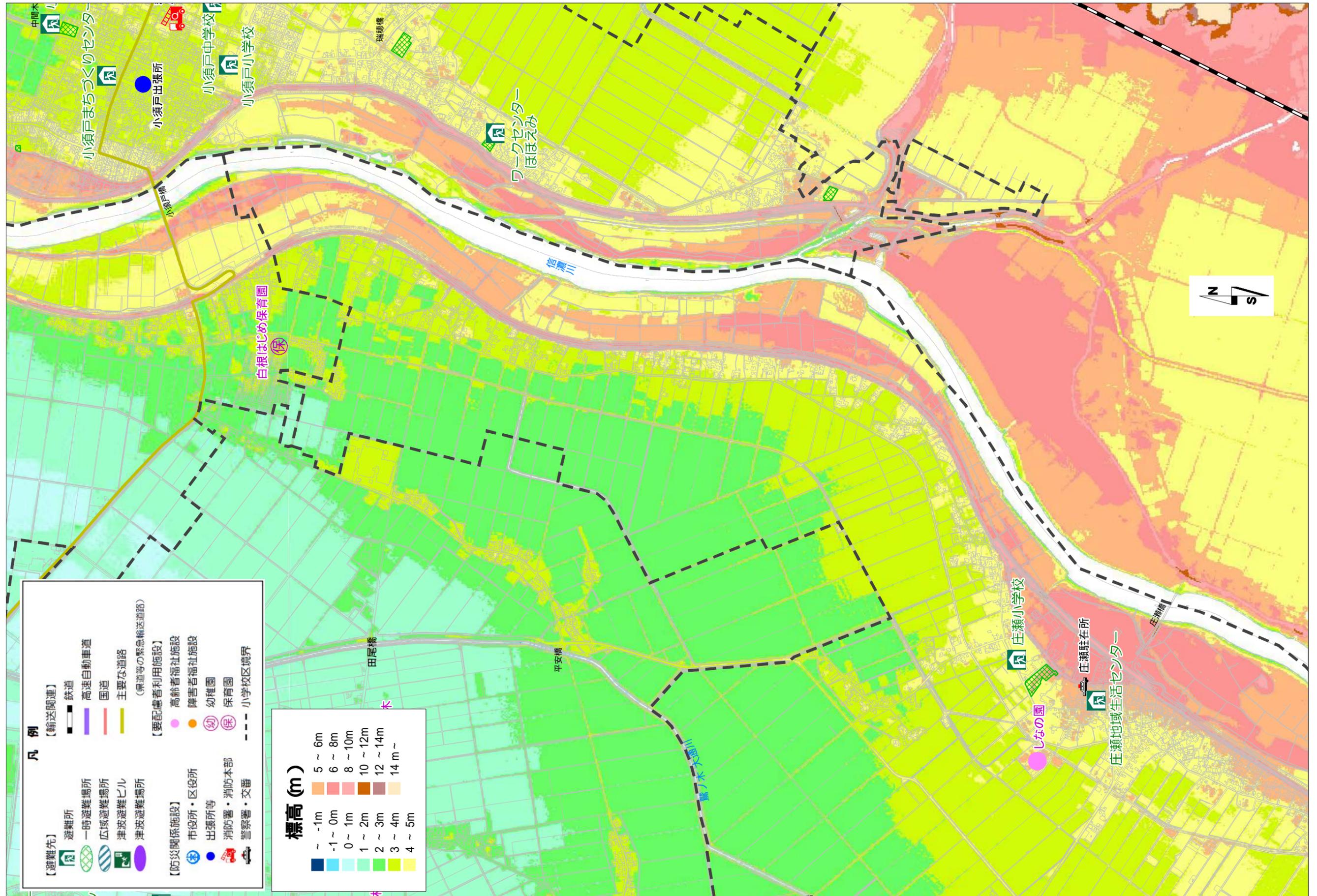


標高 (m)

| | |
|---------|----------|
| ~ -1m | 5 ~ 6m |
| -1 ~ 0m | 6 ~ 8m |
| 0 ~ 1m | 8 ~ 10m |
| 1 ~ 2m | 10 ~ 12m |
| 2 ~ 3m | 12 ~ 14m |
| 3 ~ 4m | 14 m ~ |
| 4 ~ 5m | |

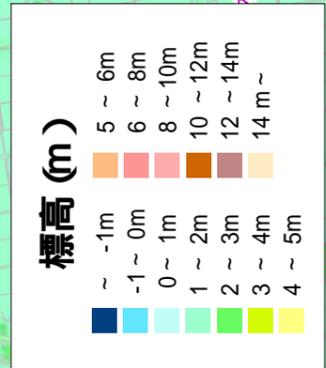
凡例

| | | | | | |
|------------|---------|---------|----------|--------|--------------|
| 【避難先】 | 避難所 | 一時避難場所 | 広域避難場所 | 津波避難ビル | 津波避難場所 |
| 【防災関係施設】 | 市役所・区役所 | 出張所等 | 消防署・消防本部 | 警察署・交番 | |
| 【輸送関連】 | 鉄道 | 高速自動車道 | 国道 | 主要な道路 | (県道等の緊急輸送道路) |
| 【要配慮者利用施設】 | 高齢者福祉施設 | 障害者福祉施設 | 幼稚園 | 保育園 | 小学校区境界 |

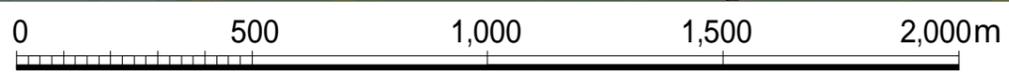


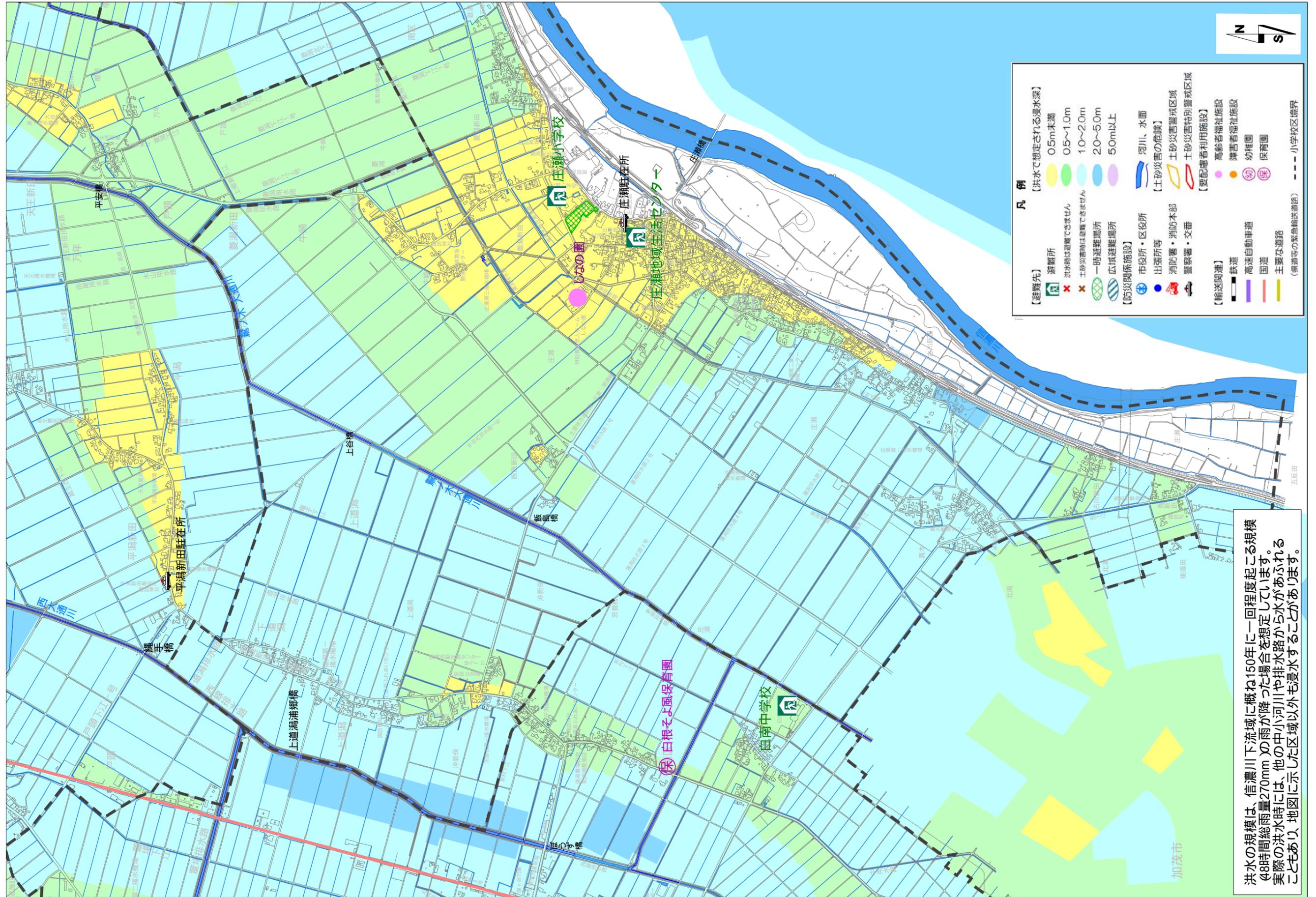
凡例

| | |
|-----------------|-------------------|
| 【避難先】 | 【輸送関連】 |
| 避難所 | 鉄道 |
| 一時避難場所 | 高速自動車道 |
| 広域避難場所 | 国道 |
| 津波避難ビル | 主要な道路 |
| 津波避難場所 | (県道等の緊急輸送道路) |
| | 【要配慮者利用施設】 |
| 【防災関係施設】 | 高齢者福祉施設 |
| 市役所・区役所 | 障害者福祉施設 |
| 出張所等 | 幼稚園 |
| 消防署・消防本部 | 保育園 |
| 警察署・交番 | 小学校区境界 |



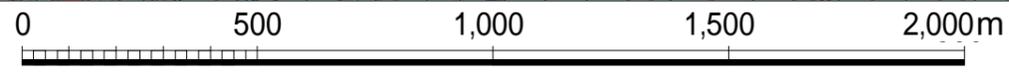
[出典] 基礎の地図 新潟市国土基本図 (平成20年, 平成25年, 平成26年) 5mメッシュDEM (国土地理院, 平成25年)

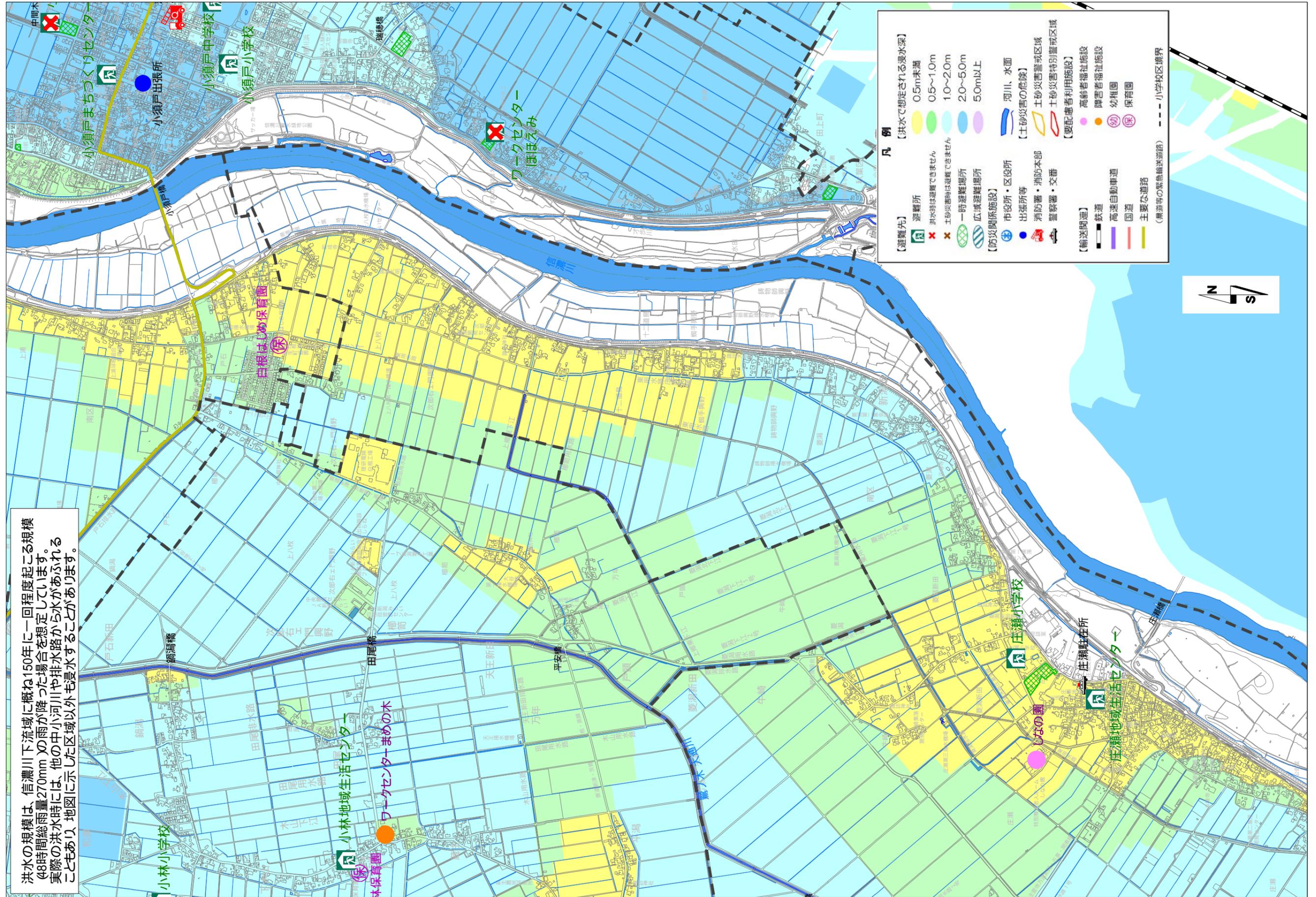




洪水の規模は、信濃川下流域に概ね150年に一回程度起こる規模（48時間総雨量270mm）の雨が降った場合を想定しています。実際の洪水時には、他の中小河川や排水路から水があふれることもあり、地図に示した区域以外にも浸水することがあります。

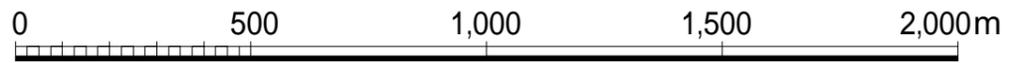
【出典】 基盤の地図 新潟市国土基本図（平成20年，平成25年，平成26年）
 信濃川下流浸水想定区域（国土交通省，平成14年4月30日）

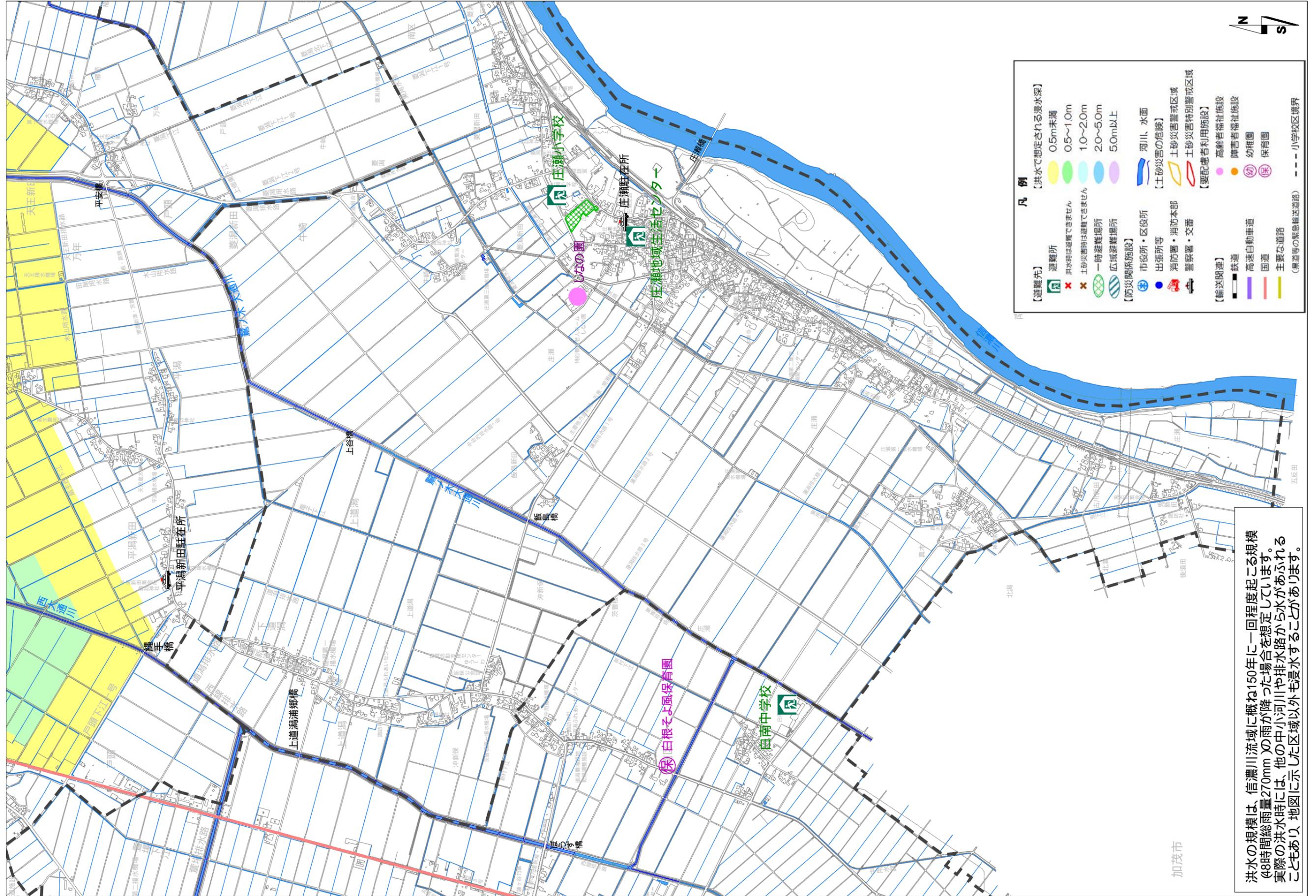




洪水の規模は、信濃川下流域に概ね150年に一回程度起こる規模（48時間総雨量270mm）の雨が降った場合を想定しています。実際の洪水時には、他の中小河川や排水路から水があふれることもあり、地図に示した区域以外にも浸水することがあります。

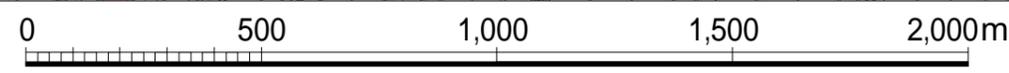
【出典】 基礎の地図 新潟市国土基本図（平成20年，平成25年，平成26年）
 信濃川下流浸水想定区域（国土交通省，平成14年4月30日）

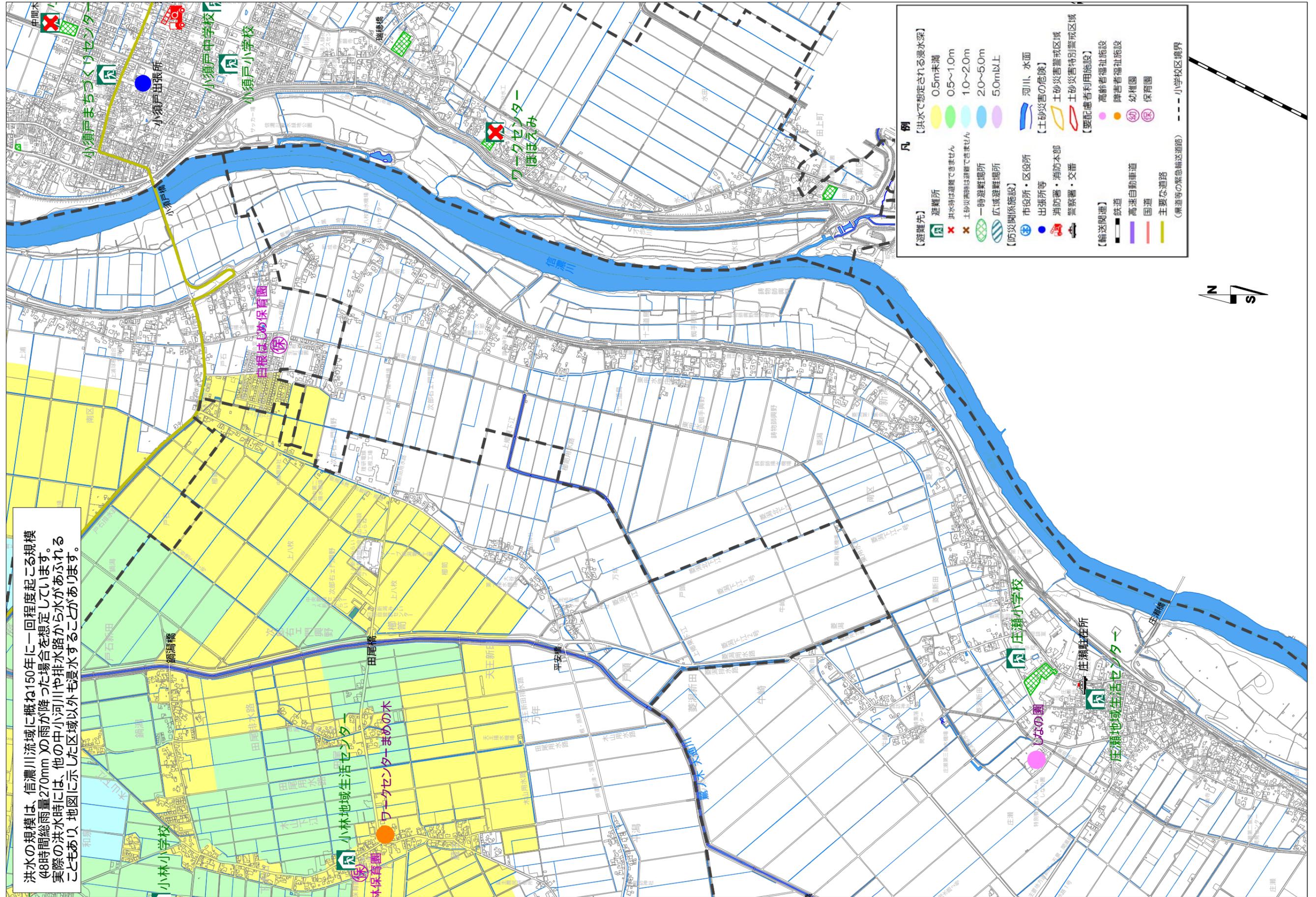




洪水の規模は、信濃川流域に概ね150年に一回程度起こる規模(48時間総雨量270mm)の雨が降った場合を想定しています。実際の洪水時には、他の中小河川や排水路から水があふれることもあり、地図に示した区域以外も浸水することがあります。

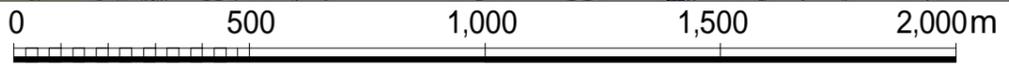
[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図(平成20年,平成25年,平成26年)
 中ノ口川浸水想定区域(新潟県,平成16年6月15日)

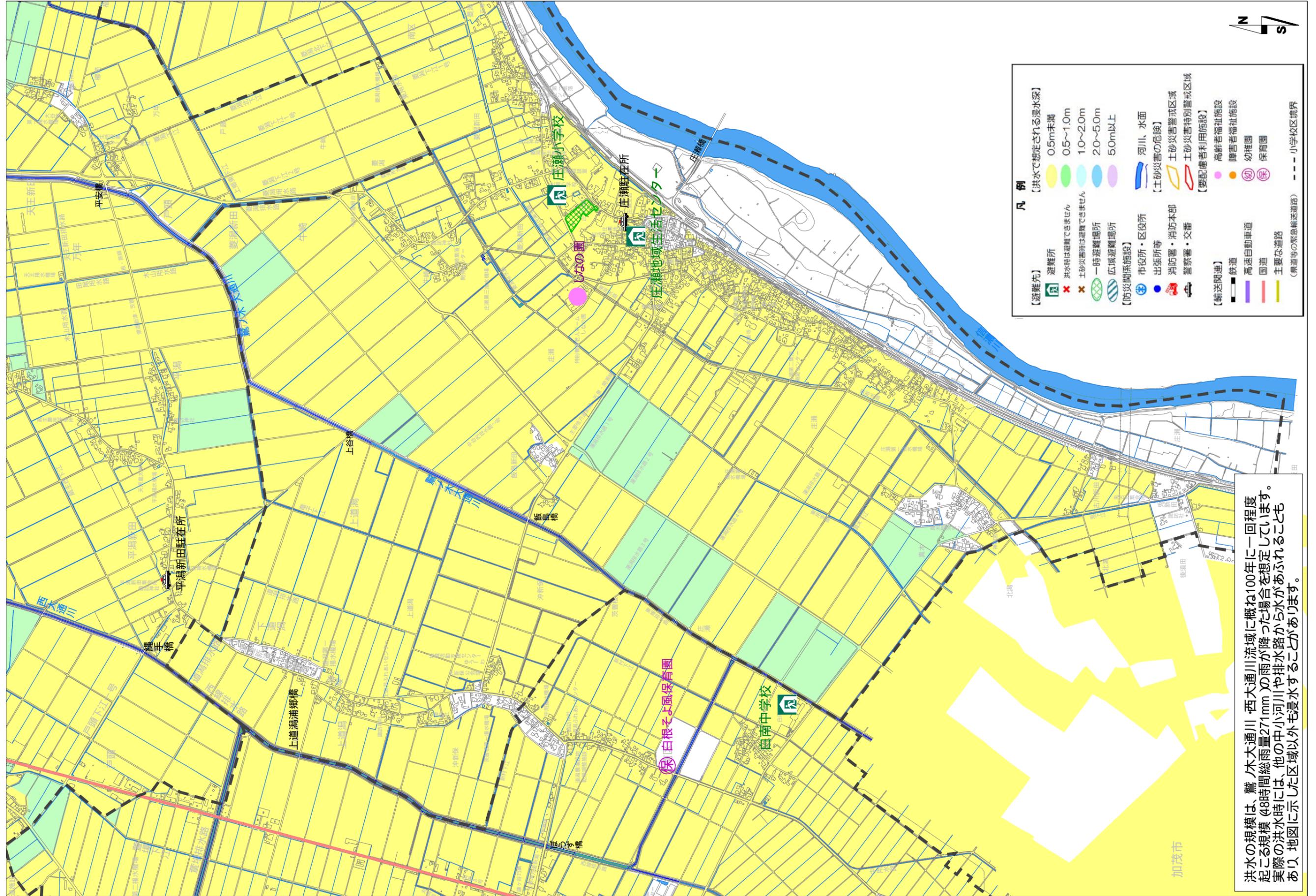




洪水の規模は、信濃川流域に概ね150年に一回程度起こる規模(48時間総雨量270mm)の雨が降った場合を想定しています。実際の洪水時には、他の中小河川や排水路から水があふれることもあり、地図に示した区域以外にも浸水することがあります。

【出典】 隣接の地図 新潟市国土基本図(平成20年,平成25年,平成26年)
中ノ口川浸水想定区域(新潟県,平成16年6月15日)





凡例

【避難先】

- 避難所 (緑の建物アイコン)
- 洪水時は避難できません (赤いX)
- 土砂災害時は避難できません (赤いX)
- 一時避難場所 (緑の建物アイコン)
- 広域避難場所 (緑の建物アイコン)

【防災関係施設】

- 市役所・区役所 (青い建物アイコン)
- 出張所等 (青い建物アイコン)
- 消防署・消防本部 (赤い建物アイコン)
- 警察署・交番 (赤い建物アイコン)

【輸送関連】

- 鉄道 (黒い線)
- 高速自動車道 (赤い線)
- 国道 (赤い線)
- 主要な道路 (黒い線)
- (県道等の緊急輸送道路) (黒い線)

【洪水で想定される浸水深】

- 0.5m未満 (黄色)
- 0.5~1.0m (薄緑)
- 1.0~2.0m (中緑)
- 2.0~5.0m (濃緑)
- 5.0m以上 (紫)

【土砂災害の危険】

- 河川、水面 (青い線)
- 土砂災害警戒区域 (赤い線)
- 土砂災害特別警戒区域 (赤い線)

【要配慮者利用施設】

- 高齢者福祉施設 (赤い丸)
- 障害者福祉施設 (赤い丸)
- 幼稚園 (赤い丸)
- 保育園 (赤い丸)

その他:

- 小学校区境界 (黒い点線)

洪水の規模は、鷲ノ木大通川・西大通川流域に概ね100年に一回程度起る規模(48時間総雨量271mm)の雨が降った場合を想定しています。実際の洪水時には、他の中小河川や排水路から水があふれることもあり、地図に示した区域以外も浸水することがあります。

【出典】 基盤の地図 新潟市国土基本図(平成20年,平成25年,平成26年)
 鷲ノ木大通川・西大通川浸水想定区域(新潟県,平成21年8月21日)

